

新年のごあいさつ



東京ヨットクラブ 会長 小島 正和
(TEAM 10 Jr.)

迎春

昨年は大変な事故が起きてしまいました。10月27日、TYCヨットレースシリーズ戦第9戦において、ペガⅢ艇の代表であります佐々木俊治さん(81才)が他艇との接触時に落水、すぐに救助されましたが病院に搬送される途中で亡くなりました。

佐々木俊治さんは海を愛し、ヨットを愛し、TYCのイベントには熱心に参加されていました。TYCの役員でもあり、いつもお酒を飲みながら我々の活動を温かく見守って下さいました。本当に残念です。

心から哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

TYCでは、今回の事故を受けてレース運営の見直し、安全対策の改善はもちろん、マリーナ運営母体のスバル興業殿および海上保安部殿と連携・協議しながら健全な海洋スポーツ・レジャーを推進していく方策を考えていきたいと思っております。

TYCは一昨年(2012年)20周年となり、記念誌を発行致しました。その中で、“発足当初からヨットレースを通じて、TYCの3原則を訴えてきました。それは、

1. 安全性の追求
2. 帆走技術・操船技術の向上
3. 会員同士の親睦

すなわち、安全第一を最優先に、技術の向上、そして夢の島マリーナ係留艇およびスタッフの皆様はもちろん、他マリーナ・クラブさらには海外のマリーナ・クラブの皆様との交流を深めることによって、すばらしいマリンライフを創造するとともにシーマンシップの向上を図る事を目的としております。”と記しています。

今回の事故にあたり、喪に服してTYCの今年度の活動を停止すべき、というご意見がある事も承知しております。しかし私は、故佐々木俊治さんがこよなく海を愛し、ヨットを愛していただけにTYCの活動をここで停止することは決して望んでいないと思います。むしろ今後のTYCの活躍に期待し、応援してくださっているものと信じています。おそらく会員の皆さまのほとんどが同じ思いだと思います。

また、ここで活動を停止しますと会員の皆さまがレースやクルージング等の機会を失い、クルーも減少して活動を再開した時にはかえって危険が増すものと考え、活動を継続し

ていく事の方が重要な意味を持つものと思っています。

さて、年が改まって平成26年（2014年）、東北の復興も順調に進み、日本および世界経済も立ち直って希望に満ちた、いい年になる事を願うばかりです。

昨年は東京国体が開催され、若洲がセーリング競技会場となりました。また、ご承知のように、2020年東京オリンピック開催が決定し、東京オリンピック招致委員会が準備委員会に切り替わり、動き始めています。TYC も近隣ヨットクラブとして準備委員会のメンバーとして参画しています。オリンピックのセーリング競技会場も若洲沖が予定されており、若洲の先端（ゲートブリッジの真下）に新たに「若洲オリンピックマリーナ」が建設されます。

普段 TYC のクラブレースも若洲沖で行っていることから、レース運営、ホスピタリティーに関して各関係機関も TYC に期待するところが大であり、我々もヨット、パワーボートの方々を問わずこの大きなイベントを支援していきたいと思っております。

今年はヨットレースにおいて TYC 独自の安全基準を構築し、クルージングを含めて安全第一を最優先に活動して行きたいと思っております。

そして二度とこの様な痛ましい事故が起きないように活動していきましょう。

皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成26年元旦